AAS NEWS (Vol. 59)

発行日 令和７年１月５日（年２回発行）

「林住期」の生き方

古代インドでは「四住期」という考え方が生まれ、そして人々のあいだに広がった。…これは人生を四つの時期に区切って、それぞれの生き方を示唆する興味深い思想だ。最近では日本でもよく知られるようになってきた。

「学生期」がくしょうき：青春：25 歳まで
「家住期」かじゅうき：朱夏：50 歳まで
「林住期」りんじゅうき：白秋：75 歳まで
「遊行期」ゆぎょうき：玄冬：100 歳まで

…「苦」の世界の中で、「歓び」を求める。真の「生き甲斐」をさがす。それを「林住期」の意味だと考える。そのための準備が必要なのだ。
なによりも、五十歳からの二十五年間こそ人生のもっとも豊かな時期になりうるという可能性を想像することである。実際に社会から身をひく六十歳を、人生の「臨終期」のように考えることをやめよう。現代人の「林住期」は、五十歳から始まるのだ。…「林住期」を人生の「黄金期」と決意することから、新しい日々が始まるのだ…。

[人が本来なすべきこと]…そもそもこの自分は、生きてなにをなそうと心に願っていたのだろうか。私たちの日常は、そういう自己への問いかけすらなすいとまもなく、雑事に追われて過ぎていく。自分が本当にやりたいと思うのはなにか。以前からやりたいとひそかに願っていたことは？そういう問いかけは、追われながら走りつづけている日常からは、うまれてはこない。「林住期」にさしかかった人間にできることの一つは、そういった生活の足しにはならないようなことを本気で自分に問い返してみるということだ。本来の自分を見つめる、とは、そういうことだろう…。

[真の生き甲斐をどこに求めるか]…そもそも「林住期」の生きかたは、「必要」ということから遠く離れることにある。私たちは生活を支える必要がある。そのために働く。家庭を維持し、子供を育てるための必要から定職をもつ。あるいは自己の夢を実現する必要によって、社会的な活動に従事する。すべては「必要」からだ。「林住期」の真の意味は「必要」からでなく、「興味」によって何事かをする、ということにある。これまでずっと自分がたずさわってきた仕事を続けるにしても、そこから百八十度コースを変えて転身するにしても、今度は「必要」ではなく、はっきりと「興味」本位でそれをやる。ということだ…。

[人生のクライマックス]…私は今を「息があがった」時代と感じている。肩で息をしている生きかただ。それに対して、「息をしずめる」ことが大事だと考えたい。「しずめる」は「静める」であるとともに「沈める」ことでもある。呼吸を下半身にとりもどす必要があるのだ。人間の重心を「頭にきている」状態から、ハートへ、胸と心からさらに「肚のすわった」位置へとしずめることを思う。それは人生のクライマックスを、「学生期」「家住期」から「林住期」へと移行させることだ。人生をやり直すというのではない。一から始めることでもない。青・壮年期を、真の人生の助走期と考えることである。

これはいやおうなしに「人生百年」時代に直面している私たちの、まったく新しい人間観のささやかな出発点だ…。　（出典：五木寛之「林住期」幻冬舎 2007 年）

ひと昔前に「林住期」に入ったのに、その後も「必要」から「興味」へのシフトがうまく出来ないという想いがありました。昨春のﾈﾊﾟｰﾙ出張後に人生２回目の脳血管疾患となり、その入院中に自分の置かれた仕事と生活環境を見直す時間がありました。

漠然と考えていた人生の目的を具現化することは今からでもできるのではないか。身近の人たちの理解と、自分の少しの勇気を出すことで、動き出すことができるのではないか。

AAS の出張で痛感するﾈﾊﾟｰﾙの若者の就職難と、県警通訳で目の当たりにする在日ﾈﾊﾟｰﾙ人の厳しい境遇の改善につながることができるのではないか。

「林住期」の半ばを過ぎても「興味」人生を全うすることはできるのではないか。

東海トラスト設立

「興味」を具現化する、7 月設立の東海トラスト㈱で「農業」を勉強中です。協力隊 OB の H 氏や M 氏に相談しながら、代表社員の K 氏とともに、耕作放棄地や休耕田の造成や営農計画を立てますが、「農業」は奥深く、多分野の知識、技術が必要だと半年かけて理解したところです。親会社の㈱東海コンサルタンツや JICA 協力隊 OB 仲間ほかの賛同をもらいながら進めていきます。

ネパールから農業青年を招いて、渥美半島で営農に携わってもらうためにはとりあえず、「認定農業法人」の登録と自分の営農技術を習得する必要があります。

8 月 Shanta 氏短期来日、田原市江比間町東海トラスト本社開所パーティ集合写真。本場ネパールカレーで乾杯。
H 氏(ｻﾓｱ OB)が手配してくれた農機第 1 号調達の管理機が到着。

11 月 Kabindra 氏短期来日、2025 年春に計画するネパール人材雇用について実務レベル協議を行う。玉ねぎ畑の給水作業を体験してもらう。ネパール人招へいについて経験豊かなナイスガイ。協議には JICA 業務に詳しい K 女史（中国 OG）がｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加。

AAS 卒業生を含めたネパールの人材を日本に呼ぶことは、以前から検討していましたが、招へいするには基本的に許認可制度上の「派遣業」や「紹介業」の登録が未整備です。また、農地造成などについて「認定農業法人」登録が資金調達や人事面で有利です。さらに実際の営農のためには「大型特殊」や「小型建設機械」の受講、免許が必要で、いろいろな準備段階があります。営農計画は国内だけでなく、ネパール側とのコラボをスムーズにする必要があります。そこで、8 月に AAS 現地組織バタスファウンデーション代表の Shanta 氏、そして 11 月に Kabindra 氏が来日して、実務協議を進めています。

文芸春秋 2023 年 3 月号で「日本の食が危ない」と鈴木信宏氏が警鐘を鳴らしています。

…私は、輸出振興もスマート農業も否定するわけではない。だが食料自給率が 38%と極めて低く、世界的な食料危機が迫っている状況下で、国内生産を上げなければ、国民の命は守れない。「日本で自給するより、アメリカやオーストラリアから輸入するほうがコストが安い」「食料の調達先を多角化すればリスクが分散されて安全保障になる」といった論を展開する新自由主義の学者もいるが、これは誤りと言わざるを得ない。輸入が止まったらどうするのか？――この根本的な問題に、今の日本の農業構造では対応できないからである。安全保障のコストを考えていないという点で、新自由主義は欠陥理論だということがわかる…。

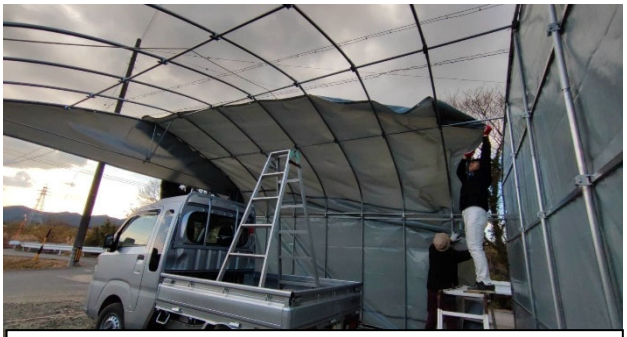
さらに、有機（自然）農法について自治体とコラボした実例を紹介しています。

…稲作では、栃木県の「民間稲作研究所」代表の稲葉光國氏（故人）が提唱した有機農法が注目されている。慣行栽培に比べて種もみの量を半分に減らし、1 本 1 本が強く害虫にも負けない苗を作る。さらに水を深く張って日光を遮り、代かきの際に雑草の種を土に練り込むことで発芽を抑える。いわば農薬を使う「除草」ではなく雑草の成長を抑える「抑草」の発想に切り替えたのだ。驚くべきことに、この稲葉氏の方法は農薬や化学肥料に頼らず、手間もかからない上に、水田 10 アール当たりの所得が慣行栽培の 6 倍にもなっている。千葉県いすみ市はこの方法を実践。1 俵 2 万円で地元の有機米を買い取り、学校給食もすべて有機米に切り替わっているという。そのため市内では一気に有機農業が普及したという…。

Tokai Trust 第１期(7 月～12 月)の活動記録

40 年近く放棄された水田復旧工事。野ばらに覆われた雑木林部分を地元建設会社に委託しﾊﾞｯｸﾎｳ伐開する。ﾀﾞﾝﾌﾟ約 10 台分を撤去処分。薪ストーブ用になったか？(20 番地)

水田は借地でスタート。休耕中に伸び放題だった 3m のｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳの密林を大型ﾊﾝﾏｰﾅｲﾌで伐採。雑木はﾁｪｰﾝｿｳ、のり面は手動草刈り機を駆使し合計 0.4ha の水田用地を確保。一方で重要な用水の整備と畔づくりが年越しとなり、この用水施設の復旧工事は地元自治体に依頼中。(21,22 番地)



中古トラクターもＨ氏の手配で入手。保管に必要な車庫はパイプ主体の B5.5m×L5.7m×H3.0m の大きめなサイズにした。比較的頑丈な構造であるが、渥美半島の台風時はどうなるか。3 人で苦労して掛けたシートが飛ぶことはないだろう。

捨てられていた波板も利用して排水不良の農地に暗渠排水を施工する。長年放棄された水田基盤は岩盤並みに固く、借りた 0.1 ㎥ﾊﾞｯｸﾎｳにはｵｰﾊﾞｰﾜｰｸ気味。この農地はとりあえず玉ねぎ畑に利用して、緑肥改良の予定。

S56 年築造の親族の家を本社事務所に利用。旧給湯ボイラーの取替工事で発見された上水道の複合水漏れの修理工事。複雑な配管と長年の累計漏水量を思い、嘆く。

江比間七ツ山の麓に吹きすさぶ北西の強風の中で、われわれの玉ねぎはうまく育ってくれるのだろうか？早生 500 本と晩生 1500 本をＨ氏提供の玉ねぎマルチシート(15m×4 条)で田面に植えた。Ｈ氏は「雑木林化した土壌は基本的に栄養豊か」というが、営農実績につなげることができるか…。
営農主力担当のＫ君と二人腰痛をこらえながら希望をつなぐ。田面のレベル測量は東海コンサルタンツの支援による(黄杭)。

水田予定農地とは別の場所に、親族から提供された竹林。昔は立派な畑だったこの竹林の伐採と処理計画を年度末に実施したものの、立すいの余地もなく密生する 15m の青竹の処理はなかなか難しい。Ｍ氏(ﾓﾛｯｺ OB)所有の大型ﾁｯﾊﾟｰ 450kg を岐阜県からオペ付き移送、轟音と竹粉吹雪の中、写真左の隣地所有者も何事かと見学に。竹材は「はざかけの稲架」として、竹粉はミネラル分豊かな土壌改良材に利用されるが、如何せん腰痛が…。

奨学生リスト

AICHI ASIA SCHOLARSHIP 2024
STUDENTS REMITTANCE CHECK LIST:(2024.12.1支給)

番号	氏名		写真	クラス	支給額 Rs	住所(adress) 電話(contact No.)
1	生徒名	Prabin Pariyar:プラビン・パリヤール		9		
	学校所在地	Pokhara ポカラ				
2	生徒名	Sahara Pariyar サハラ・パリヤル	No photo	9		
	学校所在地	Tulsipur トゥルシプール				
3	生徒名	Reshma Ramtel レッシュマ・ラムテル		9		
	学校所在地	Kathmandu カトマンズ				
4	生徒名	Anjali Basnet アンジャリ・バスネット		8		
	学校所在地	Nale (ナレ)				
5	生徒名	Laxmi Tamang ラクシュミ・タマン		8		
	学校所在地	Kathmandu (カトマンズ)				
6	生徒名	Nanumaya Jirel ナヌマヤ・ジレル		7		
	学校所在地	Jiri ジリ				
7	生徒名	Amish Jirel アミッシュ・ジレル		8		
	学校所在地	Jiri ジリ				
8	生徒名	Isara BK イサラ・ビ・ケー		7		
	学校所在地	Tulsipur トゥルシプール				
9	生徒名	SANDIP NEPALII サンディップ・ネパーリ		7		
	学校所在地	Tulsipur トゥルシプール				
10	生徒名	Anita Budhatoki アニタ・ブダトキ		7		
	学校所在地	Tulsipur トゥルシプール				
11	生徒名	Karna Karki カルナ・カルキ		7		
	学校所在地	Pokhara ポカラ				
12	生徒名	Binesh Ram Chamar ビネッシュ・ラム・チャマール		7		
	学校所在地	Kathmandu カトマンズ				
13	生徒名	Ashika Jirel アシカ・ジレル		7		
	学校所在地	Jiri ジリ				
14	生徒名	Pratiksha Jirel プラティクシャ・ジレル		6		
	学校所在地	Jiri ジリ				
15	生徒名	Shristi Budhathoki スリスティ・ブダトキ		6		
	学校所在地	Tulsipur トゥルシプール				
16	生徒名	Babita Budha バビタ・ブッダ		7		
	口座名	Babita Budha				
	口座番号	2885753157572001				
	銀行名	NICASIA Bank Limited, Chapagau Branch				
	学校所在地	Lele レレ				
17	生徒名	Samjhana Gurung サムジャナ・グルン		8		
	口座名	Samjhana Gurung				
	口座番号	0161120052996700001				
	銀行名	Kamana Sewa Bikas Bank Ltd. Srijana Chowk				
	学校所在地	Pokhara ポカラ				
18	生徒名	Puratika Kumal	No photo	6		
	学校所在地	Tulsipur トゥルシプール				
		Total			117,600	

6-7class	Rs/month	
8 class	Rs/month	1st remittance:1st/Jun⇒1st/July
9 class	Rs/month	2nd remittance 1st/Dec
10 class	Rs/month	

令和６年の一年間に会費、寄付などご協力いただき方々です。　　（敬称略）

豊田一雄・菅野照代・工藤隆久・兵藤吉之・河田恵子・鎌谷啓行・大木伸浩・小澤眞一・平尾秀夫・鈴木例・酒井英雄・榊原周造・毛利桂子・荒河麻紀・鈴木清博・林良宣・丸子節子・高木正・山本明・伊藤玲子・木下美保・加藤敬道・室田育代・河合伸幸・匿名

ご寄付を頂いた方々です。

平尾秀夫・大木伸浩・山本明・室田育代・菅野照代・酒井英雄・毛利桂子・匿名

AICHI-ASIA-SCHOLARSHIP 愛知・アジア・スカラーシップ
（2025 年調査旅行は５月中～下旬を予定しています。）